

校長室から 学校評価の結果について

先般実施させていただいた「学校評価」にご協力をいただき、ありがとうございました。その際に皆様からいただいたアンケートのなかで、いくつかご意見をいただきましたので、それらについて、学校長としてご返答をさせていただきたいと思っております。

1 生徒のあいさつについてのご意見

丸岡中学校の生徒は、あいさつをしっかりしてくれてうれしいという意見を多数いただきました。ありがとうございます。その反面、「あいさつの声が小さい」、「声を掛けても返事が返ってこない」というご意見もいくつかいただいております。

私も朝街頭に立っておりますと、「おはようございます」の声が小さい生徒がいると感じています。保護者のみなさまも時々街頭に立っておられて、声が小さいと感じ、ご指摘をいただいたのではないかと思います。

あいさつは、家庭でのあいさつがまず基本になります。家族みんなであいさつを掛け合い、それを近所の子、また地域の子へと広げていただけることをまずお願いしたいと思っております。思春期を迎え、なかなか難しい場面もあろうかと思いますが、家庭で親が子へ、声を掛け続けることが、子どもへの一番の意識付けになるのではないのでしょうか。

学校でも、我々教職員がまず元気なあいさつを交わし合い、自ら襟を正しながら、生徒たちに明るく声を掛けていきますので、保護者のみなさま、ご家族のみなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2 自転車の乗り方についてのご意見

先日、2年生の保護者のみなさまが、街頭指導に早朝から立ってくださいました。その中にも次のようなご意見がありました。

- ・車道を斜め横断する生徒がいた。
- ・一旦停止をしない。
- ・交差点をスピードを落とさずに進入する。
- ・あごひもが緩い生徒がいて注意した。

これらの他に、並進をして、話をしながら通行するために、ドライバーの方からお叱りを受けることも時にあります。

学校では、生徒の交通マナーについて、街頭に立って指導をしたり、生徒指導部長が、職員朝礼で注意してほしいことを担任に伝えて、その日のうちに子どもたちに注意を促しています。しかしながら、これがなかなか徹底しないのも事実です。

今後の対策としては、今一度生徒たちの交通規則遵守にむけて、指導を強化してまいります。職員も街頭に立って、直接指導していきます。また、命を守るということは、生徒自らが真剣に考えなければならないことです。そこで、生徒会活動を通じて、生徒同士が交通ルール遵守を呼びかけていくような取り組みも考えていきたいと思っております。

保護者のみなさまにもお願いがあります。是非、ご家庭でも自転車の乗り方について、話し合ってくださいと思います。ご家庭で「自転車、気をつけて運転してね」「並進したらダメだよ」といった、ちょっとした一言をお子さんに掛けてあげてほしいと思います。大切なことは、事故にあう前のルールの遵守です。命に係わることですので、家庭、地域と学校がともに手を取り合って進めていかなければならないと思います。

3 不登校やいじめなどへの対応についてのご意見

学校評価では、こうした子どもの問題について、学校は全校体制で臨んでいるのかというご指摘でした。

本校では、生徒一人一人が安心して学校生活を送られるように、全教職員が一丸となって生徒指導や教育相談活動に取り組んでいます。担任はもとより、教科担任や部活動顧問、養護教諭、相談担当教諭など、様々な立場で生徒一人一人の心の変化に気づいてあげたいと考えております。「ふれあい週間」と呼んでいる担任との教育相談は年間4回実施し、いじめや人間関係での悩みなどになるべく早く対応ができるようにしています。このほかに、休み時間における子どもたちの様子を常に観察し、いじめや孤立している生徒がいかなど、常に教職員同士が連絡を取り合い、問題の早期発見、早期対応に心掛けています。

それでも、生徒一人一人みな性格や個性も違いますし、考え方も異なります。どうしても人間関係がうまく保てずに深い悩みを持ってしまうこともあります。そういうときは、担任や学年主任、さらには教育相談担当や養護教諭、スクールカウンセラーなど、その子が心を打ち明けやすい人が側に寄り添い、ともに考えていこうという体制をとっております。

校長の私も、すべての生徒が自分の担任の生徒だと思って、一人一人の生徒の名前や特技などを覚えてあげて、できる限り声を掛け、一人一人の生徒が大切な存在であるということ伝えていきたいと思っています。

学校評価のご意見では、「生徒同士の見えない部分を教師は分かっていないのではないか」とのご指摘でした。確かに生徒のことをすべて分かるということは無理もあり、その点をご家庭との連携を密にして、なるべく早い段階で生徒の悩みに気づいていきたいと考えております。この点で、担任が家庭訪問などをさせていただくこともあるかと思いますが、何卒ご協力いただきますようお願いいたします。

4 学校評価のアンケート結果の活用についてのご意見

「学校評価のアンケート結果は、その後ちゃんと生かされるものなのか」というご指摘をいただきました。皆様から頂いた学校評価の結果は、きちんと集計して、皆様にもお伝えいたしますし、教職員もこれらの結果をしっかりと受けとめ、日々の教育活動に生かしております。今回の評価でも到達度の低い項目は、その原因や背景を分析し、今後の対応をきちんと考えてまいります。

子どもの教育を考えると、学校教育の存在はとても大きなものがあると思います。知識を蓄えそれを知恵に替えて生きる力とし、仲間をつくり体を鍛え、心を鍛える。こうした大事なことを学校教育は担っています。ですから、私たち教育者は、専門家としてのプロ意識をもって日々の教育にあたらねばなりません。

今回皆様から頂いた学校評価は、謙虚に受けとめて今後に生かし、みなさまからさらに信頼される学校となるように活用させていただきます。今後とも、学校と家庭が、車の両輪のごとく、手と手を携えてお子さんの育ちを支援していけますようご理解とご協力を心からお願いしたいと思います。